

○始業式・花まつりに参加した生徒の感想



3年 A.Mさん

今日は、学校の行事の一貫として、花まつりを行いました。花まつりとはお釈迦様の誕生日をお祝いする行事です。

今日聞いた講話は、2つのお話がありました。

まず1つ目は、仏教には大切なことが3つあることです。それは「縁」、「時間は止められない」、「思い通りにならない」ということです。私たちには先祖がいます。その先祖を辿って10代遡ると1024人もいて、その方々と繋がっているのです。先祖についてそこまで詳しく考えたことがなかったので、この数字を聞き自分がこの人数の人と繋がっていたことや「縁」に驚きました。1024人の先祖の中の誰か1人でもいなかったら、自分が今ここにいないと考えるととても奇跡に近いことであり、すごいなと思いました。また、私たちには「時間」が平等に与えられており、その時間をどう使っていくかは自分次第です。「時間は止められない」というお話を伺い、今後は今ある時間を大切にしていこうと改めて思いました。さらに、「思い通りにならない」というのは、全ての物は移り変わり言い換えれば、諸行無常ということなのです。これらの3つを仏教は大切にしていることを知りました。私は、この中で大切にしていることが1つでも欠けていたら、だめなのかなと思います。3つ揃わないと仏教が本当に大切にしていることではないのかなと思います。

2つ目は、心の中の宝石の話です。誰でもみんな、心の中には宝石があります。その宝石が曇っているときに、相手を怒らせたり、困らせたり、傷つけたり、不快に思わせたりします。心の中の宝石を磨いて輝かせおくと、ずっと幸せで生きていけます。いつも心の中に宝石があることを忘れてはいけない、それを磨き続けなければ決して無駄にはならないということを知りました。私はずっと輝いているのが1番いいと思いますが、そんなにずっと輝き続けられる人は一握りの人だと思います。誰でも人間だから感情を持っていて、時には嬉しいこともあり、悲しいこともあり、辛いこともあり、心が曇ることもあります。それをどう使い分けられるかだと思います。1人でいるときだけ、家にいるときだけで曇っていて、外に出たら人と関わる時は磨いた心を持って、切り替えることが大切なのではないかなと思います。しかし、自分だけではその曇った心を磨ききれない、どうしようもないとき、誰かに頼るといことも大切だと思います。人は1人では生きていけない生き物なので、それぞれ「縁」が大切になるのだと思います。その相談できる相手は血が繋がっていてもいなくても、その相手と出会っているのは奇跡に近いことで、相談出来る相手がいることは本当に僅かしかいないほどの奇跡です。そして逆の立場の場合は、心が曇っている人がいたら、一緒に磨けるように互いに人同士支え合っていくことが大切だと思います。そして何より大切なのは、どんな宝石であったとしても自分の宝石を大切にしていけることだと思います。心の宝石は自分の一生のものです。私はずっと心の宝石を大切にしていきたいと思います。



3年 H.Kさん

今日は始業式と花まつりがありました。始めの散華の舞の時から自分の中では何か違うとを感じるものがあって、最高学年として、受験生としてという気持ちから、何故か去年の今頃は何をを考えていたのだろうと考えたり、入学したての時は何を考えていたのだろうという気持ちを振り返ったりしている自分がいました。そんなとき、ご講話頂いた内容に「先祖」の話が出てきて、1人でもかけていたら自分の存在がないことや、周りの人ともどこかの先祖でつながっているかもしれないといった内容を聞き、多生・他生の意味について考えることが出来ました。また、縁という言葉にとっても重みを感じ、こういったご時世で人との距離をとることが大事ですが、本来は支え合い、繋がりを大切にするのが仏教なのだと、忘れかけていたことを思い出すことが出来ました。そして、晴耕雨読という言葉から、今が雨読の時に余裕を持って時間を過ごすことが大切なのだと気づきました。もう1つ、体と心と言葉で人を幸せにするという考えがとても素敵だと思い、人が1日1回仏になる理由の中に心の中の宝石というものがあって、私たちはそれを信じて高校生活最後の1年間を過ごすべきだと思いました。

今日の始業式、花まつりでこのご時世だからこそ忘れていた仏教の基本を新入生とともに初心に戻って学ぶことができ、とても新鮮な気持ちになりました。自分をもう一度見直す機会となったので良かったです。